

< 指導目標の立て方 >

得られた情報をもとに、その児童生徒にできる具体的な支援の手立てを考えます。

多くの場合、取りかかりは「学級で担任が授業の中で比較的簡単にできる配慮点」です。

すでにいくつか実践されている場合も多いでしょう。そのことをAにまとめて書いてみます。

また、通級指導教室等で個別に指導を受ける場合はBに、保護者が家庭でできることをCに書きます。一度には困難でも「できる所でまず一つ」をやってみましょう。可能であれば、それぞれの立場の担当者が自分で書いたものを相互に検討すると良いでしょう。

()の指導の手立て

	A:通常学級の指導の手立て	B:特別な場での指導の手立て	C:家庭での支援の手立て
学 習			
行 動			
そ の 他			

うまくいったら、個々の場面での目標設定を考えます。目標を決めると、相談の中で確認してきたことが達成できたか、次の目標を何にするか、相談しやすくなります。

()の指導の手立て

	通常学級の指導の手立て	特別な場での指導の手立て	家庭での支援の手立て
学 習	長期目標	長期目標	長期目標
	短期目標	短期目標	短期目標
行 動	長期目標	長期目標	長期目標
	短期目標	短期目標	短期目標
そ の 他	長期目標	長期目標	長期目標
	短期目標	短期目標	短期目標

この表に限らず、自校で考慮されたものがあればその表を活用し、担任と保護者、または校内委員会での検討を一定期間で継続していきます。(Plan-Do-Seeのサイクル)